

氏名 仲 田 浩 之

学位(専攻分野) 博 士(医 学)

学位授与番号 博 乙 第 2582 号

学位授与の日付 平成 5 年 6 月 30 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 非定型的白血物の病態並びに治療に関する研究

第 1 編 低形成型骨髓造血異常症 (Myelodysplasia with Hypoplastic Marrow) の検討

第 2 編 非定型的白血物の治療に関する検討; 'N-behenoyl-1- β -D-arabinofuranosyl-cytosine (BHAC) 少量療法の臨床効果

論文審査委員 教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

各種血球形態異常と芽球の軽度増加といった点で Myelodysplastic syndromes (MDS) の診断基準を満足さすものの、骨髓が低形成を示すために MDS から除外される病態、低形成型骨髓造血異常症 (Myelodysplasia with Hypoplastic Marrow) (MDH) の臨床血液学的位置付けを明確にする目的で本病態の臨床事項、血液所見、臨床経過を MDS との比較において検討した。その結果、MDH は MDS と本質を異にするものではなく、白血病に先行する造血異常状態であるという点から、低形成型 MDS として MDS の中に位置付けるべきであると考えられた。

また、低形成型白血病の至適臨床管理体系の確立を目的とし、これまで教室で行ってきた治療成績を解析したが、新抗白血病剤の開発と投与法の検討あるいは各種支持療法の進歩から本症に対する化学療法の施行は再検討される必要があり、その中でいくつかの薬理学的特性を有した BHAC 少量療法は、本症の臨床管理において評価しうる治療法の一つであると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は低形成型骨髓増血異常症（MDH）の臨床血液学的位置付けを明確にする目的で本病態の臨床事項，血液所見，臨床経過を Myelodysplastic syndromes（MDS）との比較において検討したものである。その結果，MDHは低形成型 MDS として MDS の中に位置付けるべきであると考えられ，また BHAC 少量療法は，本症の臨床管理において評価しうる治療法の一つであることを明らかにした。これは価値ある業績であり，よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。